

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016
法人名	医療法人社団一就会
事業所名	グループホーム湯と里
所在地	静岡県伊豆の国市長岡953-1
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 25 日
評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2290800016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 4年 11月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院という事で、体調に不安があるときには昼夜問わずに診察や処置を受ける事が可能である。月曜日から土曜日の朝は毎日院長が様子を見に来ているため、入居者様やご家族だけではなく職員も心強く感じている。また、医師・看護師・リハビリ各担当者・検査技師・放射線技師・栄養士の専門的助言を随時受ける事も可能である。可能な限り実施している外出や屋内での催し物など季節のイベントを多く楽しみ感じられるよう企画をしている。コロナ禍で制限がされている部分もあるので、月に2回、おやつレクリエーションをすることにより、通常の生活により多くの刺激を受けられるようにした。入浴は温泉を使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の介護度が年齢とともに年々高くなるので今年度は安全対策に力を入れている。危機予測の対応として、人感センサーを設置し、ミーティングでモニタリングを行い使用している。家族の面会はコロナの感染状況を見て、感染対策をとりながら、できるだけ来所してもらえるように工夫し継続している。運営推進会議も行政からの指示で1度だけの中止で、その後は集会して行っている。定期的におやつレクと車中ドライブ、外気浴で気分転換を図っている。医療法人のため、主治医が毎日朝晩利用者の様子を見に来てくれ、感染対策に留意しているため、クラスターや濃厚接触者も出ていない。看護師とも24時間相談ができる体制である。入浴は温泉を利用したり、1階の小規模多機能の機械浴を利用することもできる。今年度から認知症カフェが始まり、今後も地域連携を強化していく予定でいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を出入口に掲示し、職員だけでなくご家族や訪問者にも見えるようにしている。また、会議の際に日々の変化する入居者様の体調面等を居室担当やケアマネが報告し、職員全員で対応方法を考えるようにしている。	理念は玄関、事務所に掲示し、意義を共有して実践に繋げている。勤務経験が長い職員が多く、理念についても理解を深め、月1回の会議の中でも職員への周知を確認する機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の方々や近隣の施設より、情報を頂き、認知症カフェなどに参加している。また、地域清掃や防災訓練に参加し、地域との交流を図っている。運営推進会議には、地域の方の出席を依頼している。認知症カフェゆとりあを運営している。	コロナ禍で地域の行事に参加することが出来ていないが、延期になっていた認知症カフェを今年8月にオープンした。近くの住民が来店し、ボランティアがカフェの運営を手伝ってくれるなど、少しずつ地域交流の場が復活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方だけではなく、市内の高齢者の方に出会う機会があると、介護についての相談を受けたり、気軽に立ち寄って頂けるように話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容については、議事録に必ず職員全員目を通して。必要に応じて、再度話をしたり、運営推進会議で出された意見について話し合いをしている。指摘を受けた事柄に関してはサービスを向上できるように努めている。	感染対策をして、市、包括支援センター職員、関係機関の職員が一同に会して行っている。地区区長が今年度より参加し、家族も可能な範囲で参加してもらっている。会議内容はテーマを決め、年間計画を立て、必要に応じて専門分野の方に講師を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の実情を伝えたり、情報提供をして頂いている。介護サービスについて市町村から助言を受ける場合もある。また、ボランティアの紹介も市から受けている。	包括支援センターとは利用者の入居の問い合わせ等の相談を行っている。また 計画作成者が市の地域推進委員のメンバーとなっており、今年8月にオープンした認知症カフェの開催の相談、助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・通用口は開放している。徘徊や転倒の危険がある方には、可能な限り寄り添うようにしている。抑制的な発言は慎むように職員に指導している。スピーチロックのポスターを、職員の目に入るところに掲示している。身体拘束委員会を設置している。	マニュアル、指針はあり、職員は自由に閲覧することができる。委員会は全職員で構成し、3ヶ月毎に委員会を開いている。年2回研修を行い、どちらも必要に応じて、随時開催することもある。	

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように常に職員全員で連携をとり、教育し、注意している。日頃の職員会議等で「虐待」にあたる行動・行為・言動などを周知し、話し合う機会をもうけている。チェックリストを活用し、虐待をしていないか、再認識するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が現在いらっしやらない。以前の経験をふまえ、必要な方には情報を提供し、積極的に活用を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、不安や疑問に耳を傾けており、何度も聴いていただくように話をしている。質問等があれば、随時お応えできる環境が整備されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を入り口に設置している。面会時には、必ず、話をうかがうようにしており、職員全員で解決すべきところは職員会議の場で話し合い、運営に反映している。電話で受けた内容に関しても、共有している。	コロナ禍でもできるだけ面会を継続し、その際家族から意見を聞いている。面会に来れない家族には電話連絡を行ない、毎月利用者の様子を書いた手紙を請求書と一緒に家族に送付し、写真入りのお便りは2か月に1度送付している。年度初めに担当職員が家族に挨拶の電話をしている。	コロナ禍で面会の時間が短くなり、県外の家族は来れない等の制約があるので、家族にアンケートをとり、意向の把握や意見や要望を集め、運営に反映出来るよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞いたり、相談をしたりしている。毎月の職員会議でも意見交換を行い改善できる事は受け入れている。	外部評価の面談で、新入職員より会議は意見が言いやすい雰囲気があり、普段の業務の中でも疑問点などを聞きやすく、教えてもらえる環境が整っている事が伺われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明し、職員への経営に関しての意識づけを図っている。代表者は現場職員に直接声をかけてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	呼びかけて研修の参加を促し、研修後は報告書を作成し、会議で報告し、知識の共有を図っている。また、運営推進会議内でも研修を発表する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹施設との交流する機会をつくり、利用者とともに行事に参加してもらう事がある。地域や姉妹法人の研修に参加しネットワークづくりを行うとともにサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を十分に傾聴し、受け止める姿勢で接し安心して生活していただけるように努めている。ご本人の主張に焦点をあて、それについてどのようなサービスを提供することができるのか提案し、安心に繋げてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は、真剣に受け止め、一つ一つ丁寧に話し合い、信頼関係の構築に努めている。アセスメントを通して、聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人や家族の思い、状況を確認し改善が図れるようにしている。入居に至らない場合は、他のサービスの紹介を行うなど、情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は参加を働きかけ、一緒にやって頂いた事に対して感謝の気持ちを伝えている。一緒に生活をしているものと思っていた様、関係づくりを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り、ご本人の思いを伝え、ご家族の思いを確認しながら、一緒に支援するようにしている。感謝してくれる時があるが、それはご家族・ご本人あつての事だとこちらも感謝を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への帰宅や、居室で一緒に過ごしていただくなどしている。コロナの時期にも環境整備や対策を強化し、馴染みの人の面会も受け入れるようにしてきた。	感染対策をして、コロナ第7波の時以外は面会時間を決めて、県内在住の家族や知人の面会を受け入れている。また、ラインのライブカメラでの面会もできるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良い関係でいられるように、常に気を配っている。話題を提供したり、仲介役を行いコミュニケーションが図れるようにしている。喧嘩の仲介にも入り、お互いが気分不快にならないように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のご家族に会う機会があると、その後の様子をうかがい相談を傾聴している。更新書類の申請などにはサービス終了後にも携わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の介護度の幅が広いので、会話や表情からご本人の希望や意向を把握するように努めている。それでも、困難な場合はご本人の安全を考慮して検討している。	現在は介護度の高い利用者が多く、利用者の思いや意向を把握するのが難しいが、職員は利用者の様子を観察し、気持ちをくみ取っていて、情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や日常の会話からも、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。時には家族にうかがっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を把握したうえで、個々の生活リズムを理解するようにしている。また、体調や気分など日々様子観察を行い、職員間で情報を共有しケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室の担当職員を中心に、ご本人やご家族の思いや意見を日頃の関わりの中でうかがい、反映させるようにしている。自主トレーニングについては、隣接する病院の理学療法士・作業療法士と情報交換を行い、日常生活で行えるメニューを作成していただき、実践している。	担当職員は利用者の気づきを会議で報告し、モニタリング、カンファレンスを全職員で行っている。理学療法士、作業療法士と生活機能向上のための相談の情報交換をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫、時に注意すべき点などは業務日誌や個人ケースに記録し情報を共有している。また、それを介護計画に活かすようにしている。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の状況に応じて通院などの支援を臨機応変に行っている。様々なケースに柔軟に対応できるように、管理者・職員間で予測している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の新聞や市の広報などから情報を得て活用している。また、近隣からの情報を元に季節折々の催し物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、継続して受診できるように支援しているが、隣接する病院にある診療科をご家族とご本人の希望で主治医にするケースが多い。	全利用者が隣接する同じ法人の病院を受診している。定期的な往診以外に、朝晩に主治医である病院長が利用者の様子を見に来てくれるので、体調変化について相談出来る。また急変時は病院の看護師に相談することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェック、日々の動きや表情などに変化がないか観察し、異常の早期発見に努めている。心配な時は、病院の看護師に相談し、医師に繋げることもある。変動が気になる時には、昼夜、バイタルチェックをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人の支援に必要な情報を提供している。入院中は、ご家族・相談員より様子などをうかがっている。また、日頃より協力病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人・家族と話し合いを行い、意向に沿って終末期を迎えている。ムンテラには必ず立ち会うようにしている。異変の早期発見に努め、家族と今後について話をしている。グループホーム内での看取りも実施している。	入居時に重度化、終末期の対応について説明をし、看取りについての同意書もらっている。終末期が近づく医師が家族に説明し、事業所と今後の方針を話し合い、再度同意書もらう。看取りの研修は全職員で、事例ごとにリアルタイムで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応できるようにマニュアルを整備しており、わかりやすい位置に掲示している。状況に応じて動けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、同一建物に併設する小規模多機能ホームと合同で防災訓練を行っている。歩行が困難な方が増えてきたので、担架を完備している。	年に2回併設の小規模多機能と合同で訓練を行っている。今年度は夜間想定訓練を行い、季節想定シミュレーションも行った。担架を使用した訓練を行い、訓練の様子は写真にとり、運営推進会議でも発表している。備蓄は隣の医療機関で保管管理されている。	近年、局所的な大雨等災害が想定を超える場合が多く、先日の静岡市清水区の大風による停電や断水の状況等を参考にいつ何が起きても対応できるように、検討されるよう希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いから言葉かけや対応に失礼のないように気を付けている。入居者様の対応で気づいた事があれば、個人的に注意するのではなく、職員全員で共有し解決するために職員会議で話し合いをしている。	利用者への接し方、声かけには気を配り、職員同士で気づいたことは会議で話し合い、共有している。研修では「ふわふわ言葉、とげとげ言葉」等学び、実践に結びつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず確認している。答えやすく選びやすいように問いかけを心掛けている。確認が難しい方は、表情を観察するが、生活歴を調べたり、ご家族に相談する場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の活動マニュアルがあるが、その状況に応じて、柔軟に対応している。一人ひとりのペースを大切にするために、常に声掛けをしながら見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月に約3名のペースで訪問美容院を依頼している。利用者からの声があがれば対応するようにしている。ご本人の好みの衣類をご家族が準備して下さる方が多い。外出の際に化粧をする入居者もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で隣接する病院で調理されている。片付けなど出来る事は行っていただいている。週一回は、気分を変える意味でお弁当にしている。コロナがない時には外食も実施している。	病院の厨房で調理された食事をグループホームで配膳している。月2回おやつレクを取り入れ、職員が計画をたて実施している。また、毎週木曜日のお昼は食事を楽しめるよう工夫してお弁当の日を設け、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量などをチェックしており、必要に応じて間食の量を増やしたり、梅びしおをかけたりしている。また、個々に合わせた食事形態や病気に合わせた食事を提供している。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを働きかけている。困難な方は、その方に合った口腔ケア方法で援助している。義歯の方は夕食後に洗浄と除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、さり気なくお誘いしている。日中はトイレ誘導を心掛けている。特に、朝には排便を促す為にもトイレに座っていただいている。	職員は個々の排泄パターンを把握し、日中は声かけをしてトイレへ誘導している。夜間はリハビリパンツにパットの利用者が多く、時間見ながらパットの交換をしている。排泄の記録は、個々の記録表に記入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳製品の提供と運動する時間を設けて参加を促している。トイレに座った時におなかのマッサージを行っている。整腸剤・下剤を服用する方も様子を見ながら適宜調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日を設定しているが、ご本人に確認しながら実行している。要望により入浴回数を増加したり、足浴や陰部洗浄を行うなどして清潔に努めている。	週2回の入浴を支援している。2階のお風呂には温泉を引き、入浴が楽しめるよう工夫している。併設の小規模多機能には機械浴があるので、現在3人の利用者が定期的に利用している。拒否のある人には声かけのタイミング等工夫して入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の活動性に配慮し、午睡を実施している。また、臥床時間に合わせて室内の温度を調節したり安心して休んでいただけるように声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルやお薬手帳を整理して管理している。薬の変更や追加等が分かりやすいように個別ケースに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や特技を生かした役割を持っていただいております。外出・外食時には希望をうかがっている。お酒を要求する利用者に対して、普段飲まないようなソフトドリンクを提供し、喜んでいただいた。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも季節を感じていたがけるように外出の計画を立てている。また、外食時には希望を伺い、選ぶ楽しみを感じていただくように支援している。外出が難しい場合は、日向ぼっこをしながら体操を行うようにしてる。ドライブへで、利用者の希望の場所・職員のおすすめの場所に出かけている。	天気の良い日には敷地内の駐車場で日光浴をしたり、水曜日には車中ドライブに出かけることがある。コロナ禍でも人出の少ない場所、利用者の希望する所、職員のお勧めの所に出かけ、季節を感じてもらえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は鍵付きのロッカーで保管している。必要に応じて、職員が利用者の要望の品を購入している。利用者の身体状況によっては買い物と一緒にすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	問題なく家族からの電話を取り次いだり、手紙を渡したりしている。携帯電話を所持している利用者もいらっしやるので、発信や充電など必要時は援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アットホームな雰囲気づくりを心掛けている。季節を感じられるような飾りを配置すると、利用者間でそれについての話をしている様子をうかがえる。ご家族も喜んでくれている。清潔感のあるように掃除をしている。	リビングは広く、作品を掲示する場所がたくさんある。現在は介護度が高い利用者が多く、職員が中心になって季節を感じる掲示をしている。換気は1時間毎に5分間行い、天窓も開けるなど環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で活動や休養し、リフレッシュしたり、悠々過ごしている様子がうかがえる。リビングで利用者が過ごす時間などには会話をしたり、共同で遊び、交流を図るような空間ができていられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人・家族がセッティングしてくれている。使い慣れたもの、好みのものなど、本人が自分個人の部屋だと感じるような場所になっている。	部屋によって間取りが違っていて敷物をひいたり、寝室とくつろぎの場を分けたりと、馴染みの物に囲まれたその人らしい居室づくりを支援している。入居された利用者のお部屋作りには、家族にも関わってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなどの認識ができるよう、マークを付け、目印にしている。手すりを強化し、安全に移動・運動ができるようになっている。一人ひとりの動作の観察・把握に努め、段差解消や家具の設置に工夫している。		